



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users/2/kansinko/>

平成21年 1月

事務局 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-21-1
 国立国際医療センター戸山病院臨床検査部内
 発行者 三浦隆雄
 編集委員 渡司博幸・峰岸正明・深澤文子
 久間修平
 印刷所 東洋印刷株式会社
 ☎03-3352-7443



新年の御挨拶

国立病院臨床検査技師協会 関東信越支部
 支部長 三 浦 隆 雄



新年おめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、心新たにさまざまな決意をもって新年をお迎えのことと拝察いたします。世の中は医・食・住・金・政の不安で穏やかではありませんが、皆様のご多幸とご発展を心よりお祈り申し上げます。

昨年中は、各種研修会、支部学会、退職会員を囲む合同交流会等の支部活動に、多数のご参加が得られ概ね好評でありました。公私ともご多忙のなか、ご参加された皆様のご理解とお力添えに深く感謝申し上げます。

関信支部はこの一年もまた職能団体として、これまでの支部事業をさらに充実発展させ、「臨床検査部門の質的向上と活性化」を目指して、多くの会員の皆様が連携交流できる場を計画してまいります。引き続き支部活動への多数の皆様のご支援とご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

臨床検査を通して、安心安全で良質かつ効率のよい医療を提供することがわれわれの使命であります。日々それぞれの立場や役割に応じて、今できることから前向きな一歩を踏み出すこと、何かを始めてみるのが大事と考えます。"人の集まる所にチャンスあり幸運あり"と申します。あると思います。"金持ちよりも人持ち心持ち"と申します。全く同感至極であります。今年はこの事を心で吟じながら過ごしてみようと考えているところです。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



新年の御挨拶

関東信越ブロック事務所統括部医療課
 臨床検査専門職 永 井 正 樹



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は皆様から多大なるご支援とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。同時に、日頃から単身赴任や遠距離通勤を余儀なくされている皆様には、ご自身の体調管理のみならず、ご家族との関係等にもご苦労をおかけしていることに対しまして、心より労いの意を表したいと思っております。

昨年を振り返りますと、四月にこの大役を拝命し、右も左もわからない新米の専門職として、日々悪戦苦闘を繰り返してまいりました。何分不慣れな部分が多々ございましたので、皆様にはご心配とご迷惑をおかけしたと思いますが、ご容赦願いたいと思っております。最初の1年間は全ての事が初体験ですので、必然的に手探り状態にならざるを得ないわけですが、皆さんの暖かいご支援とご協力のおかげで今があることを実感しております。なかでも試薬の共同購入という過去に経験のない事業は、各施設の皆さんを始め、集計作業等にご尽力いただいた国臨協本部および関信支部の関係各位のご協力により成し得たものであり、この紙面をお借りして改めて感謝を申し上げる次第でございます。

さて、今年は国立病院機構も次期中期計画が定められますので、これに基づき使命を果たすべく、我々も一丸となって業務の遂行に当たらなければならないと考えております。また今年も病院経営の健全化や検査の質向上に向けた各種取り組みなど、皆様には色々ご苦労をおかけするものと思います。しかしながら、次の世代に確固とした国立医療機関の臨床検査部門として引き継いでいくためにも、我々が自覚を新たにこの難局に対応していかなければならないと考えております。

皆様方の変えらぬご支援とご協力をお願いするとともに、皆様方のご健康とご活躍を祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。



茨城地区会会長 ……………佐 藤 本 則

新年あけましておめでとうございます。茨城地区会を代表して関信支部会員の皆様に新春のご挨拶を申し上げます。

茨城地区会は、県の北側に位置する茨城東病院と中央に位置する水戸医療センター・南に位置する霞ヶ浦医療センターの三施設からなり会員総数41名で構成されており、昨年の年間行事として六月に総会を開催し 講師に水戸医療センター院長 園部 眞 先生から「臨床検査技師にこれから求められること」について経営面を含めた具体的かつ将来を見据えた有意義な講演でありました。

十一月には毎年恒例となっています茨城の瓦版こと『いばこみNo. 7』の発刊・一足早い忘年会を行い会員の親睦を深め、来年度が良き年であることを願ひ散会いたしました。

昨年は四月に診療報酬改定があり、かなり落ち込むかなと思いきや影響は少なかったと思われました。十月からは試薬の共同購入が始まり経営改善に寄与するものと思われる。

また、四月から医療用消耗品の一部も共同購入との話もあり、準備の方々のご苦労が目に見えるようです。

世界大不況の中の新年となりますが、オバマさん同様関信支部もチェンジを念頭に入れ、まだまだ良き医療団体に生まれ変われると思いますので、過去に引きずられることなく、チェンジすることを祈願いたします。

最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して、新年の挨拶といたします。

栃木地区会会長 ……………猪 原 玉 富

あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、栃木地区会では関信支部主催の学会・研修会等に積極的に参加してまいりました。また、会員の親睦を図りつつ、地域の医療に貢献していくため、個々のレベルアップに繋がる勉強会等も、栃木地区独自に開催してまいりました。特に8月の勉強会では「新型インフルエンザについて」。12月の勉強会では「特定健診とLDLコレステロールについて」など、最近の話題に着目して、その背景や意義について考え、知識を深めてきました。おかげさまで、栃木地区2施設、会員30名と少ない会員数ではありますが、地区の特徴を継承しながら、活動が出来たことを喜びに思っております。

今年は世の中でおきている景気の先行き問題、社会情勢の変化など、我々の医療現場にどのような影響をもたらすのか。それらはおのずと無視できない身の回りの状況変化であることには間違いありません。コメディカルの一員として、そのような時勢にとまどうことなく、今年一年、チーム医療や経営改善に貢献でき、充実感を持てる仕事をしていけたらと思います。

ところで、以前ある新聞に「勝者のワザ」ということが書かれていました。プロゴルファーが左足首負傷で、ゴルフができなかった時期、リハビリを兼ねてアプローチショットを徹底的に練習。フルショットが計算通りに打てず、グリーンを外すような、ピンチに立たされたときをみこしての、危機管理を行い、見事通算20勝を達成。だれもが練習場に行くと、ついドライバーを振り回しがちだが、オフはウエッジだけをもって練習場に足を運び・・・と。

検査技師もプロにたとえ、勝負の世界に置き換えて考えてみると、「己」（技師）は今、小技に磨きをかけよう！」でしょうか。今年は個人の能力を高め、発展させる年にしたいものです。

最後になりましたが、会員の皆様のご多幸と益々のご活躍をお祈りして新年のご挨拶といたします。

群馬地区会会長 ……………青 木 貞 男

明けましておめでとうございます

会員の皆様には、心新たに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、スポーツ界に大記録が二つ生まれました。一つは、テニスプレーヤーのクルム伊達公子さんで12年間のブランクをはねのけ全日本選手権で16年ぶり3回目の優勝を果たしました。もう一つは、プロ野球の岩隈久志投手で、18年1勝、19年5勝とふるわなかったが、昨年は21勝をあげて23年ぶりの大記録をつくり投手三冠（最多勝利、防御率、勝率）に輝きました。引退もしくは引退寸前？の選手と思われましたが、どちらの選手もあきらめずに全魂の「一球」の積み重ねが大記録につながったと思われます。私たち検査技師もいろいろな要望や要求が病院側から出されると思いますが、検査部門にとってではなく病院にとってどうなのかを考えながら全魂の「一球」を打ったり、投げたりしていくことが大事であると思います。

群馬地区会としては、関信支部とキャッチボールを繰り返しながら学術活動の推進と会員のコミュニケーションを深め、資質の向上と技術の研鑽を進めていきますのでご支援ご指導をお願い申し上げます。

最後になりましたが、群馬地区会を代表しまして関信支部役員並びに会員の皆様のますますのご発展とご多幸をお祈りいたします。

千葉地区会副会長 ……………土 井 誠 一

新年あけましておめでとうございます。

国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに

新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は、通り魔事件等身勝手な犯行や不信感を招く事件が多かったと思います。人間は決して一人で生きているのではなく、気付かないところで色々な人が支えてくれているという意識があればこの様な事が起こらなかつたかもしれません。もしかすると皆様の職場でも、自分一人だけで業務ができるようになったとか、認定資格を取得したと思っている方がいるかもしれません。確かに本人の努力もありますが、その前に失敗しても面倒をみてくれた人、その環境を整えてくれた上司や同僚・後輩が必ずいたはずです。何処かで誰かが支えてくれていたということを頭の隅に入れて働いていかなければと思います。

千葉地区会では、これまで様々な研修会を活動の中心として行なってきました。昨年度は医療事故防止を目的とし、輸血に関連する研修会を開催してきましたが、今年度も引き続き輸血研修会と懇親会を計画しています。我々臨床検査技師の環境にも団塊世代の退職という波が押し寄せ、若い技師の方も増えてきております。他施設の多くの方と接し色々な知識や情報を交換し、また新しい仲間ができる場として千葉地区会を計画しています。

今、我々の働く検査部門は非常に厳しい環境下にありますが、臨床検査専門職・各協議会・国臨協が中心となり、この厳しく長いトンネルを抜け出し、明るい方向へ向かおうと行動しています。この波に順応できるように会員一人一人が自覚を持ち、一丸となって対応して行かなければなりません。今後も、関信支部と連携を密に取りながら会員のための地区会を運営していきたいと考えております。「Yes, we can!」です。

最後になりましたが、皆様方のご多幸と益々のご活躍をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

神奈川地区会会長……………太 田 雅 司

新年明けましておめでとうございます。

神奈川地区会を代表して関信支部会員の皆様に新春の御祝詞を申し上げます。

さて、年頭にあたり最初にふれておかなければならない事項として昨年暮れに「独立行政法人 国立病院機構 南横浜病院」が廃院となったことです。これにより神奈川地区会は6施設から5施設になりました。統廃合を経て9施設（分院含む）あった施設も半数になろうとしています。南横浜病院に勤務された技師の方々にはさまざまな思い出があると思います。また神奈川地区会の絶頂期を知る者として、若干の寂しさを感じるのは、歳からくるのでしょうか。それともこういう時代背景からなのでしょうか。

おそらく最後になるだろう昨年11月27日に業務の一環として、まだ使用出来る機器類の救済と、もう一点は個人として南横浜病院とのお別れのつもりで来院しました。そして思いがけず残務整理で忙しいなか、中村技師長さんとも懇談する機会を得て公私ともに収穫の多き一日だったと実感しました。また後から振り返ってみると神奈川地区会・神奈川県技師長会両会会長としてのお勤めを果たしたよう

な気持ちになり、この日のことは年頭の挨拶に感謝をこめて書き添えようと思いました。本当にありがとうございました。

また、私たちの医療現場に目を向けますと一層きびしい状況が伺えます。公立機関であっても医師不足、資金不足で廃院に追いやられている現状です。先人の言葉に「大変な時ほど目の仕事を片づけろ」という危機を乗り切る方法を教わりました。今、まさに国臨協・技師長会・専門職が取り組んでいることがこのことであり、ランチ問題・試薬共同購入・本部専門職設置と様々な形で成果を上げています。検査部門のボトムアップもいまこそ必要だと痛感しています。この厳しい現状に会員が一丸となって頑張らしましょう。

皆様今年一年のご多幸と益々のご繁栄を祈念いたします。

新潟地区会会長……………山 田 清 春

新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には晴やかな新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

昨年も前年を上回る「食における偽装」「秋葉原通り魔殺人」等々様々な出来事がありました。さらに「サブプライムローンに端を発した世界的な金融危機」のなか、明るい話題の少ない新年では有りますが、希望は「変革」を掲げて人民の心をつかんで歴史的な人種を越えた黒人初のオバマ次期米大統領の誕生ではないでしょうか？

「変革」は、一人で実現できるものではありません。周りの人たちに働きかけ、思いを共有し、一緒に考え、十分な危機意識を持って行動する状況を作り出すことが必要とされます。これは、我々臨床検査業界にもあてはまるのではないのでしょうか？

臨床検査分野において多方面から再検討を行い、時代に即応した体制作りと将来のあり方を見極める必要があります。昨年10月より開始された試薬の共同購入もその良い例と言えるでしょう。臨床検査は医療現場にEBMを提供するものであり必要不可欠である事は言うまでもない事です。が、経済的に成り立たない場合は、必要な体制であっても切捨ての運命にあるのが現代ではないのでしょうか。今後、病院検査室はどのような形での存在が可能なのか？検査技師は他部門からどのようなことを求められているのか各自が模索しスキルアップしていきたいものです。

新潟地区も関信支部と綿密な連携をとり他地区会に劣らぬよう切磋琢磨していく所存ですのでご協力お願いいたします。

最後に、皆様方今年一年のご多幸と益々のご活躍を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

長野地区会会長……………高 藤 博

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様におかれましては穏やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返り記憶の新しいところでは、救急患者のたらいまわしが相変わらず多く、妊婦の件では都内の大病院や救急指定病院等で起こり、最後は悲慘な結末であった。病院としての「責任感・使命感」はどこに行ってしまったのでしょうか、最後には舐添厚生労働大臣と石原東京都知事で責任の擦り合いがあり、TV報道で映し出された「東京ER」が悲しく感じられました。

「責任感・使命感」は我々臨床検査技師ではどうなのかを考えてみました。正確で精度の良いデータを迅速に提供するの当たり前です。と言うことは当然データに対し「責任」があることです、それには提供する前に一連の流れ（採血から受付、サンプリング、分析、報告書作成など）を再確認する必要がありますが現状ではマンパワー等で不可能であり、まして迅速報告にはなりません。そこで方法として各パート（受付、サンプリングなど）にチェック機能を介入させ、何段階のチェック機構を通過したデータが提供されるような検査科のシステムが必要であると思います。

医療に携わる者として「使命感」を持って患者さんに接し、業務を遂行することは当然であります。病院と言う組織の中に置いても臨床検査技師の「使命感」に沿って、提言すべきは提言をし、協力すべきは協力を惜しまず行動し、更に経営面にも今以上関与すべきであると思います。

臨床検査技師の「使命」は一言で言えば、正確なデータを提供することですが、そのデータの先には病める人の存在があり「責任」も問われると思います。

皆様方のご多幸と益々のご活躍をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。

山梨地区会会長 ……………川 畑 久

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

検査室から眺める霊峰富士は真っ白に雪化粧し光輝き、私たち甲府病院検査科職員が新たな目標を掲げてスタートをするにふさわしい姿を見せております。

去年は、診療報酬改定があり検査点数の引き下げが行われましたが、外来迅速検体加算の引き上げや検体管理加算の見直しにより全体的に大幅な引き下げにはならず検査点数上は大きな影響は無かったように思われます。しかし、新聞報道等にも有りますように地方病院で問題になっている医師不足はこの甲府病院においても例外ではありません。一部診療科においては患者数の減少、さらに時間外救急患者の受け入れ体制にも影響が出てきております。このことは当然検査件数の減少にも現れてきています。更なる業務改善・経営改善に向け検査科として何ができるのかが問われており、検査科としての再生プランを提示し実行している所であります。そのなかでも昨年10月より開始した検査試薬の共同購入は収支改善に大きなウエイトを占めております。新たに始まる検査消耗品の共同購入導入は更なる収支改善に繋がるものと期待されます。

甲府病院検査科の目標は昨年と同様に「其疾如風」の機動力を発揮し業務改善・経営改善、更に他部門との連携にも力を入れて行きたいと思えます。技師一人一人が状況を判断し行動すること。また自己研鑽に励み個々のスキルアップこそが患者様主体の医療サービスの向上に繋がると考えられます。

最後になりましたが、会員の皆様のご多幸と益々のご活躍をお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。

東京埼玉山梨地区技師長会会長 …原 田 正 一

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。関信支部会員の皆さんはどんな新年を迎えられたのでしょうか。家族団らんのお正月、友達と旅行やスキーに行かれた方、食べ放題寝放題のDVD三昧、はたまた仕事のローテーションで検査業務から新年から始まった方々もいますね。ご苦労様です。

去年も多くのイベントがありました。橋下大阪府知事就任はなんと38才／サブプライムローンに端を発した世界的な経済不況／暫定税率→ガソリン国会／ロス疑惑三浦氏の自殺／北京オリンピックの開会式の花火はCGだったとか。そしてオバマ氏の第44代アメリカ合衆国大統領当選……

"One voice can change a room, and if one voice can change a room, then it can change a senate, and if it can change a senate, it can change a state, and if it change a state, it can change a nation, and if it can change a nation, it can change the world. Your voice can change the world."

「ひとつになった意見は部屋を変えることができる。部屋を変えることができれば、上院を変えることができる。そして、上院を変えることができれば、州を変えることができる。そして、州を変えることができれば、国家を変えることができる。そして、国家を変えることができれば、世界を変えることができる。皆さんの意見は世界を変えることができる。」

我々検査部門では、国立病院機構本部医療部医療課に臨床検査専門職のポストが設けられたことはDrasticな前進であり、さらに国臨協本部が要役で検査試薬共同購入が開始されました。また、昨年11月に東京国際フォーラムで開催された国立病院総合医学会も盛会裏に終了しましたが、会場設営や各種会議等のアレンジメントに奔走された国臨協関信支部役員の方々にあらためて感謝申し上げます。会議終了後の懇親会の席上で永井専門職が各種団体や協議会そして会員の皆さんの団結力が重要だとコメントされました。オバマ氏の演説を検査部門にも重ね合わせる事ができますね。

東京埼玉山梨地区技師長会はメンバーである施設技師長のほとんどの方々が専門職／各種協議会等の役務を担っています。当会では、これらの情報伝達の役目を関信支部と連携し対応して参ります。関信支部会員の団結力が大きな力になります。今年をよき年に行きましょう。



NH O水戸医療センター ……………岡 村 悦 子

あけましておめでとうございます。皆様お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、輸入・国産を問わず食品不安が後を絶たず、九月以降はアメリカの証券会社破綻を発端に金融危機が世界を激震させました。国家の行く末も左右しかねない経済の大混乱は、約80年前の世界恐慌を思い起こさせるのに十分なくらいのマグニチュードを持っているとの事。

医療界においても様々な問題に見舞われた大変な年でありました。そのような中で、日本人4名がノーベル賞を受賞という嬉しいニュースが、心を和ませてくれました。

私自身の2008年は、技師長に資格の取得を勧められ「衛生管理者」に挑戦したことが一大イベントでした。今年はその資格をほんの少し活かせる「作業環境測定士の勉強を始めること」に目標を設定します。丑年にちなみ、牛歩のごとくではありますが、充実した一年になるような努力を惜しまない年にしたいものです。もちろん哲学者カントの「純粋な喜びの一つは、勤労の後の休息である。」をモットーに。

最後になりますが、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

NH O栃木病院 ……………小 林 伸 彦

明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて私は、一昨年4月からこの栃木病院に採用となり、今年から採用3年目になります。1年目、2年目は、まず学生気分から社会人としての生活になれることで精一杯で目標も曖昧なままでした。しかし、この3年目は、「新年の挨拶」をいいスタートラインと決め、仕事にも生活にも慣れ「中だるみ」になりがちな3年目とせず、具体的な目標をしっかりと立て、自身のスキルアップや生活面で充実し

た一年にしていきたいと思います。

昨年、私が立てた目標は、緊急検査士の合格でした。無事合格することができ、この集中して勉強することを継続したまま、今年も勉強していきたいです。これからは各種認定試験も、次第に受験資格を得られるようになってきているので、しっかりと確認して、いざ受けようとしたら条件が足りなかったという事の無いようにしたいと思います。

生活面では、昨年車の免許を取得したので、今年は日光東照宮や中禅寺湖といった栃木の名所までドライブに行くなど、栃木での生活をしっかりと楽しもうと思います。

最後に会員の皆様方より一層のご発展とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

NH O高崎病院 ……………岸 澤 美 帆

新年明けましておめでとうございます。

国家試験に合格し、臨床検査技師になったのが2007年4月。気がつけば就職して3年目を迎えてしまいました。高崎病院に就職した当初は、慣れない土地で右も左もわからず戸惑うことばかりでした。1年目は検査機器やシステムの取り扱い方などを覚えるのに必死でした。2年目になると自分に余裕ができ学会発表をしたり、採血業務を行ったり、検査業務以外の事もできるようになりました。3年目という節目の年を迎え、わが高崎病院は2009年10月に新病院開院予定に向け、毎日着々と工事が進んでいます。今では検査科(2階)から見上げるほど高くなっています。新病院に向け、電子カルテや新しい検査システム、採血支援システムなどが導入されることが決まり、新しく覚えることが沢山ありそうです……。そんな節目の今年は自分のプラスになるような資格取得に挑戦し、ステップアップしたいと思います。

最後に会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ご指導、ご鞭撻の程宜しく願ひいたします。

国立国際医療センター国府台病院 …村 田 行 則

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて当院は、昨年4月1日より国立精神・神経センターから国立国際医療センターとして組織の再編がなされ、一般診療科及び肝炎・免疫などを主体に研究・診療を行うナショナルセンターに運営が方向転換しました。それに合わせて臨床検査部一同、一丸となって業務改善や業務拡大、個々のスキルアップに努めております。

現在、担当している病理検査室では昨年、仲間・荒川両技師が、日本臨床細胞学会の総会と秋期大会、関東連合会学術集会で学会発表し、さらに同学会へ2題の論文投稿を行いました。本年も各人、最低1演題の学会発表を目指し、実行していこうと考えております。

私が夢を描く時、その年だけではなく3～5年後の自分と仕事をイメージするようにしております。そうする事で、実現したい夢の順番や、その時に何をしなければいけないか決まってくると思うからです。

また当院は、平成22年4月の独立行政法人化に向け、大きな転換が求められる事は必至であり、さらなる経営改善のため収支を見据えた検査項目と、患者さんを第一に考えた検査を進めて行きたいと考えております。

最後に会員皆様方より一層のご発展とご多幸をお祈りしますとともに、これからもご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

NHO相模原病院……………若 林 弘

新年、明けましておめでとうございます。

昨今ニュースを見ると、医師不足が連日のように伝えられています。特に最近、東京都で起こった医師不足による妊婦のたらい回しは、記憶に新しいところだと思います。同じような事例は、数年前に奈良県でも起きています。

繰り返される事例の背景にある産婦人科医・小児科医不足は数年前から伝えられ、今は内科医・麻酔科医など各科に及び、しかもそれは地方だけの話ではありません。

私事ではありますが、数年前超音波検査士の産婦人科領域を取得した際、指導医から「これからは、産婦人科医を助けてあげて下さい」と言われました。当初、医師でもない私が産婦人科医を助けるなんてと思いました。

しかし、我々検査技師の歴史を紐解くと、それは病理医の補助・介助からスタートしている事はご存知かと思えます。その成り立ちの上で検査技師が医師を助けるのは当たり前と考え、さて一体何が出来るのでしょうか？ この病院でも慢性的に人手不足の中、それでも診察、検査、手術に投薬と患者を前にして奮闘し診療している医師をどのように手助け出来るのでしょうか？

当たり前の事ですが、「検査は検査技師で」を心掛けていけば、自ずと道は拓かれて行くと思います。

我々に出来る検査は任せて貰い、その分医師には治療に専念してもらえれば臨床の支え（医師を助ける）になることができ、医師不足の中一番の被害を被る患者を少しでも救う事が出来るのではないかと思います。

ただし、「検査を任せて貰う」ということは、簡単な事ではないと考えています。任せて貰うには、もちろん医師を含むすべての医療スタッフに信頼されていないと任せて

貰えず、その信頼を得るには…。

今年も「検査は検査技師で」をモットーに、いかにして検査を任せて貰えるか、信頼される検査技師を目標に、新棟に生まれ変わった新しい相模原病院と共に成長していきたいと思います。

最後になりますが、会員の皆様のご活躍を祈念いたします。

NHOさいがた病院……………千 葉 雅 裕

国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

平成18年7月よりさいがた病院に採用させていただいてから、あっという間に2年半が経ちました。東京より北の地方に縁が無かったため、冬の新潟の気候に驚きもありましたが、3度目の冬を迎えようやく慣れてきました。

業務においては、1年半の検体検査担当の後、昨年からは病理を担当させていただき、その特殊性から、ただ黙々と業務に慣れる事に精一杯で日々が過ぎてしまいました。

検査科スタッフを始め、多くの方々からご指導をいただき無事に新年を迎えられ公私共に慣れてきた今年は、常に探究心や向上心を持って業務に臨み、学会や研修会等にも積極的に参加し、今年の年末に振り返っても「充実した1年だったなあ」と思えるよう努力していこうと思います。

私事です、昨年11月に2人目の子供が生まれました。人間として、親として、社会人としてもまだまだ未熟な私であり、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、子供と共に私自身も成長していきますので、これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

NHO長野病院……………中 條 幹 夫

国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

昨年は、オリンピックイヤーであり、世界中が盛り上がり感動しました。が……私達を取り巻く社会環境は、非常に厳しいのが現状であり医療現場では医療破壊さながらの問題が多く大変な1年でもありました。今年も厳しい状況下ではありますが、社会の目まぐるしい変化に対応していけるようにしたいものです。

今年は4度目の年男を向かえ、今まで特に気にせずだった健康面について気を配っていききたいので、今年の抱負は「健康管理」をしっかりと行いたいと思います。

2年前の1月1日付けで長野病院へ異動となり単身赴任

生活が始まり、単身赴任は自己管理をきちんと行わないと限りなくだらだらな生活となってしまうと感じました。そこで、昨年10月から禁煙を始め、適度な運動と食事は腹八分目を心がけています。適度な運動として夜の上田城下を1時間程のウォーキング（又はジョギング）と入浴後のストレッチ、そして食事面では、野菜を中心に偏らず食べ過ぎないように気を付けています。これらを継続出きるように無理せず頑張ります。

こんな時間が持てるのも寂しい単身赴任ならですので、自分の自由な時間を有意義に過ごし公私共に充実した1年にしたいと思っています。

最後に会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

NHO甲府病院……………唐 沢 秀 樹

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては心新たに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年の甲府病院検査科は、学会に始まり学会で締めくくられた1年でした。川畑技師長が学会長を勤めた第24回山梨県医学検査学会は3月に開催されました。検査科職員は実行委員として学会長を補佐し、また若手技師は演題発表を行いました。参加会員は300名余り、地元紙の取材も受けて無事終えることができました。11月は第45回関東甲信地区医学検査学会が甲府市で開催され、当日は山梨県技師会と協力し検査科職員が実務委員として早朝より学会運営の役務に従事しました。ふたつの学会に携わったことで地域の検査技師との親交がより一層深まり、今後の研修会・講習会で生かされると期待します。

昨年も様々な出来事がマスコミで取り上げられました。採血器具の使い回しもその一つです。患者様は敏感に反応を示しました。「この針に感染の危険性は無いのか」「いままで採血されてきたが大丈夫なのか」と不安な気持ちで来院した患者様のストレスは計り知れません。この件で医療に対する不信感が生まれたのは残念な事でした。臨床検査は疾病の早期発見・治療・経過観察に不可欠です。日頃の精度管理はもとより、患者様の満足度を考慮した取り組みも求められています。看護・薬剤・放射線等の他部門との連携を強めて、共通の認識の下で病院の特徴を生かした医療を展開する為の役割を模索し実行することによって、患者様が納得し満足できる医療に貢献できるよう努力します。病院そして検査部門を取り巻く状況は一層厳しさを増してきています。今年はやや高めに目標を設定しスキルアップに励んでいきたいと思っています。

会員の皆様のご健康とご多幸をお祈りし新年のご挨拶とさせていただきます。

NHO西埼玉中央病院……………南 雲 功

新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。私自身も昨年10月から宇都宮病院より、西埼玉中央病院勤務を命ぜられ新たな気持ちで新年を迎えることが出来ました。

昨年を振り返ってみますと、検査統計や消耗品発注・各種委員会の資料作りなどの業務に追われるなか、10月からは外来中央採血室への支援が始まりました。以前からの当直業務などを含め、限られた人員の適切な配置は必ずしも簡単ではありませんでしたが、他部門との連携が広がるいい機会と前向きに考え検査科全員で積極的に取り組んでいます。

当院は現在、平成21年度中の完成に向けて新病棟の建設が始まりました。検査科に関わる移転は輸血・迅速病理・緊急検査関係ですが、検査科においても新病棟準備委員会が設置されています。病院各科と検査科のパイプ役となり最新の状況を調査分析しながら、技師長はじめ検査科スタッフと話し合いを持ち固定観念にとらわれることなく、診療部をはじめ他部門との連携を図り、より良い環境づくりに貢献していこうと考えています。

私自身も検査技師として本来の業務に重点をおきながらもバランスを考え、新しい職場に新しい風を吹き込めたらと思っています。

最後に皆様方のご健勝とご発展を祈念し新年の挨拶とさせていただきます。



Q C 活動月間優秀賞を受賞して

チーム名：臨床検査科

今回、機構本部による第2期「できることから始めよう！QC活動」の募集に応募したところ月間優秀賞という価値ある賞を頂きました。そして、平成20年9月9日(火)国立病院機構本部において、「できることから始めよう！QC活動奨励表彰」月間優秀賞表彰状の授与式が行われました。

当日は、表彰状の授与と写真撮影後に理事長、役員を囲んで歓談会が行われました。普段目にする事のない理事長や役員の方々と交え最初は緊張して声が裏返っているような思いでしたが、逆に役員の方々がやさしく語りかけていただいたので次第に、参加者も普通に歓談が出来きるようになり、貴重な意見交換の場を与えていただきました。理事長からの話しのなかで、今まで西日本からの応募が多く、首都圏の応募が少ないことや、同施設で多数部門から応募している施設は、全体の活性が良く、病院としても地域の方々に幅広く貢献されていることが伺えました。また、国立病院のネットワークを生かして、自施設で工夫していることを多くの仲間知ってもらい、共通の悩みを解決し医療サービス・経営改善・医療安全に取り組み、質の向上を図ることで全体の品質を良くしようという目的が大変よくわかりました。

具体的構想ですが、アイディアが特許化されたら商品化して収益につながることもあるそうです。

当施設からの発表は、院内の医療安全研修会にて各部署で発表をしましたが、発表内容を分析し、ヒヤリハットの原因の追求をして、解析をした結果、マニュアルの不備と、環境整備が原因であり、医療安全のABC（あたりまえのことを、ぼんやりしないでちゃんとやれ）が守られていなかったことを反省し、マニュアルを改正しました。個人で作るマニュアルを廃止して組織でマニュアルの改正に取り組んだ結果、職場全体のルールが徹底され、コミュニケーションがとれ、結果的に業務改善の効率化に結びつき、共通のルールを徹底したことによって思い込みでの作業がなくなり、作業効率向上と技術の質向上につながりました。

マニュアルは、容易に利用可能なように、図や写真を使い誰でも現場で作業が出来るようにルールを決めて改正しました。ルール、マニュアルの変更や修正は速やかに周知徹底をしました。

・マニュアル作成に当たり以下の取り決めをしました。

- ①私的な判断で一貫性のない業務は行わない。
- ②原則としてマニュアルから外れた作業は行わない。
- ③不具合は、定期的に全体会議で修正する。
- ④責任を明確にするため、検体の受付簿を作成し、検体

NHO下志津病院 後藤 智彦

種別、依頼者、受付者のサインを記入し管理できるようにした。

また、今後も医療安全への取り組みとして、以下の点をこれからも継続していけるように心がけていきます。

①他施設の見本になれるように、ヒヤリハットが起こらない環境、間違え要因を極力取り除き、ミスを起こさない環境を保ち続けること。

②個人のミスは職場全体のものになってしまうのでハード面に限らずソフト面の不安を取り除くために、職場全体のコミュニケーションを良好に保つこと。

今回、マニュアルを改正し、職場スタッフの協力により作業効率が上がり、問題点はほぼ解消されたと思います。

これからも、出来る事からはじめていけば、いずれ大きな有益な行動につながると思います。作業効率向上と技術の質向上に励みスタッフ一同の協力のもとヒヤリハット削減に努めてまいります。

最後になりますが、今回、医療安全と一緒に取り組んだ職場のスタッフに感謝いたします。



細胞診研修会に参加して

NHO高崎病院

松 本 裕美子



平成20年10月4日（土）国立がんセンター中央病院において、国臨協関信支部主催の研修会「細胞検査士認定試験対策セミナー」が開催され参加しました。

今回はテスト形式による細胞像診断試験の形で行われ、解答・解説を国立国際医療センター戸山病院の沼田ますみ先生、国立がんセンター東病院の岩崎聖二先生、NHO千葉医療センターの小沼進吉先生、国立がんセンター中央病院の澁木康雄先生にお越しいただき、それぞれ部門別に講義していただきました。

試験はスライドに投影された細胞像を一問一分で判定していくもので、本番の試験同様の60問でした。一分で次の問題に移ってしまうので、すばやく特徴を捉えなければならず、本番のよい練習になったと思います。小休止をはさんだ後は、各講師の先生方による解答と解説をしていただきました。各部門別にそれぞれの講師の先生方が替わり、一つ一つ特徴と注意点を丁寧に教えて下さいました。悩んでいた問題などもしっかりとポイントを教えていただき、理解を深めることができました。

私は現在病理検査に携わっておりますが、細胞診検査は勉強を始めたばかりで今回のセミナーも少々不安がありました。しかし、実際に参加してみて、改めて自分の中の解らない部分や苦手な部分、逆に理解を深めて自信になった部分を確認することができ、とても充実した時間を過ごすことができました。今後の試験への対策にも大いに役立ち、本当に参加して良かったなと思いました。これから試験までもう間もないですが、今回学んだことを存分に発揮できるようにさらに努力したいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中講義をしてくださいました諸先生方、そして研修会を開催してくださいました関信支部役員の皆様に深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



微生物研修会に参加して

国立精神・神経センター病院

浅 野 太 貴



この度は微生物研修会に参加させて頂きこのような機会を与えて下さったこと、そして演者の渡辺先生、奥住先生をはじめ、関係者の方々に深く御礼を申し上げます。

私が微生物検査を始めたのはつい最近で、微生物検査についての勉強をしなければならなかった為、今回の研修会はとても貴重なものになりました。

始めに、「抗酸菌検査の現状について」私が学んだことは、何種類もある抗酸菌検査で、それぞれの検査の特性を理解し、検査を実施することの重要性を理解することができました。例えば、結核菌を見落とすのはあってはならない事ですが、技術面で問題が無くとも、結核菌と非定型抗酸菌とが混在しているような場合、その比率や菌数によっては、いかに適切な検査であれ結核菌が隠蔽されてしまうケースがあることを知りました。それが検査の限界であったとしても、このことを念頭に置き、検査をするのでは大きな違いがあるということが分かりました。

次に、「感染制御における検査部の役割」で学んだことは、細菌検査を担当する検査技師が、その病院における感染制御の第一人者だと自覚を持つということです。院内感染を未然に防ぐため、検査技師が常に疑いを持ち、情報を共有し、積極的にICTラウンド等に参加しコミュニケーションを取ることが必要不可欠であると感じました。

最後になりますが、私が微生物検査を始めてからこの研修会までの間、微生物検査に携わる検査技師には、大きく分けて3つの役割があると確信しました。1つ目は患者の治療に必要な情報を迅速に、そして正確に提供すること。2つ目は院内感染を未然に防ぐため、他部門とのコミュニケーションを図ること。3つ目は微生物検査室にある膨大なデータを管理し、研究することです。私が微生物検査に携っている間、今回の研修会で学んだことを忘れず、またこれらの事を目標にし、頑張っていこうと思います。



お知らせ**第3回 国臨協関信支部主催研修会（超音波）**

日時：平成21年1月24日（土）13：00～17：30

場所：国立成育医療センター 1階 講堂

講師：〈基礎〉佐藤 俊 行 主任技師（NHO東京医療センター）

〈消化器〉中 島 亮 主任技師（NHO千葉東病院）

〈循環器〉安 藤 敏 一 主任技師（NHO東京病院）

内容：超音波検査士認定試験対策（基礎と臨床）

輸血研修会（技師長協議会・関信支部・ブロック専門職共催）

日時：平成21年1月31日（土）15：15～（受付開始14:45）

場所：国立国際医療センター戸山病院 国際協力局 5F 大会議室

講師：比留間医院・東京都立駒込病院 比留間 潔 先生・他

学術部より**症例検討会の症例公募**

症例検討会の症例呈示施設を公募します。

平成21年5月に症例検討会を予定しています。症例を呈示していただける施設は下記へご連絡下さい。

尚、症例は発表、未発表は問いません。また、ジャンル等も一切問いません。応募の締め切りは平成21年2月13日（金）とさせていただきます。

連絡先 〒277-8577

千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立がんセンター東病院臨床検査部

学術担当理事 川村 公彦 宛

TEL 04-7133-1111 内2385

E-mail kmkawamu@east.ncc.go.jp

**平成20年度退職会員を囲む合同交流会**

4月25日（土）

場所：アルカディア市ヶ谷

時間：14：00～16：30（受付13：30～）



千葉地区会研修会 定期総会を終えて

国立がんセンター東病院 岩 崎 聖 二
平成20年7月5日（土）、国立病院機構千葉医療センター「地域医療研修センター」において研修会および第27回国臨協関信支部千葉地区会定期総会がおこなわれました。会員57名の参加に加え来賓として、永井臨床検査専門職、三浦支部長、竹田理事に出席いただきました。

研修会では千葉県赤十字センター学術担当参事の前橋美知子氏を講師にお招きして、「輸血医療の安全性確保」と題して講演していただきました。内容として第一に安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律について、第二に血液センターの検査業務集約について、第三に輸血用血液製剤への新バーコード表示について説明いただき充実した内容でした。

つづいて定期総会に移り、平成19年度の経過報告、会計報告、会計監査報告があり、その後、平成20年度の事業方針案、会計予算案、千葉地区会会則改正について討議し、最後に平成20年度千葉地区会役員の選出を行い全会一致で承認され、定期総会は閉会しました。

総会終了後、千葉の街へ繰り出し懇親会を行い、会員の親睦を深め大盛況のもとお開きとなりました。

会 長	名賀 秀己	下志津病院
副 会 長	土井 誠一	千葉東病院
事務局長	原田 崇浩	千葉医療センター
事 務 局	岡村 和美	下総精神医療センター
会 計	高橋 理誉	下志津病院
学 術	太田 修司	千葉東病院
広 報	岩崎 聖二	がんセンター東病院
広 報	田島 秀昭	国際医療センター国府台病院



「国臨協関信支部ホームページ」 に関する重要なお知らせ

平成21年2月1日より、「国臨協関信支部ホームページ」の一部の閲覧に、パスワードが必要になります。パスワードは **kansin** です。皆さん、ご来訪お待ちしております。

人 / 事 / 異 / 動

【平成20年12月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	新役職名	旧施設名	旧役職名
山 崎 剛	下総精神医療	副臨床検査技師長	村 山 医 療	主任技師
秦 操	村 山 医 療	主任技師	多磨全生園	主任技師
加 藤 寿 夫	多磨全生園	主任技師	東 京 病 院	主任技師
平 本 研 二	東 京 病 院	主任技師	水 戸 医 療	技 師
佐 藤 恵 子	水 戸 医 療	技師(採用)	国際医療戸山	(非常勤)技師
中 村 春 木	村 山 医 療	臨床検査技師長	南横浜病院	臨床検査技師長
今 村 ち さ	神奈川病院	副臨床検査技師長	南横浜病院	副臨床検査技師長
鈴 木 喜久雄	横 浜 医 療	主任技師	南横浜病院	主任技師

【平成20年10月17日付 退職・辞職者】

氏 名	施設名	役職名
高 橋 寿 一	下総精神医療	副臨床検査技師長 辞 職

編 集 後 記

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

関信支部ニュース第172号は『新年を迎えて…』と題して、昨年中に心に残った出来事や今年の抱負など多岐多様にわたり投稿して頂きました。

さて、《私は宮崎（都城）出身で、H知事と同郷である。知事は、昨年も「どげんかせんといかん」、「どげんかせんといかん」と多いに語っておられた。昨今、厳しい医療情勢の中、私達、臨床検査技師も「どげんかせんといかん」と大きな声で叫びたい。しかし、一人では「どげんかせんといかん」は成り立たない。もちろん関信支部は、会員皆様のご協力がなくては成り立たない。本年も会員の皆様にご協力を頂き、会員皆様と一緒に厳しい医療情勢の中を「どげんか…しようヨ」と思う。》 副支部長：渡司博幸



NHO 南横浜病院は、平成20年12月1日を持ちまして閉院いたしました。

臨床検査部門合同懇親会（国立病院総合医学会）報告

関信支部常任理事 益 田 泰 蔵
（国立がんセンター中央病院）

第62回国立病院総合医学会が11月21日（金）～22日（土）に、東京国際フォーラムで開催されました。今年は東京開催のため、各種関連会議、臨床検査部門合同懇親会等の準備を関信支部が担当することとなりました。一昨年の京都学会（近畿支部）、昨年の名古屋学会（東海北陸支部）の成功を踏まえて、全国からの会員をはじめ、臨床検査に関わる諸先生方をお迎えし、懇親・意見交換の場になるように一年がかりで準備を進めてきました。

臨床検査部門合同懇親会は学会会場より程近い、銀座柳通り沿いのホテルモントレ銀座で開催され、当日は約120名の参加があり大変盛大な会となりました。関信支部の林事務局長の司会進行により開会し、三浦支部長挨拶のあと、国臨協大貫会長、科長会会長倉持先生、機構本部奥田臨床検査専門職、お忙しい中ご来賓として出席いただきました機構本部医療課長中野先生よりご挨拶をいただきました。そして技師長協議会の小林新会長の乾杯挨拶により開宴となりました。

関信支部では、会を盛り上げるために余興を2つ準備いたしました。1つ目は、つだなおこ氏による似顔絵パフォーマンスです。はじめに会員の方と一緒にステージ上でのショーを繰り広げ、ショーのあとは会員の方々の変身似顔絵を描いていただきました。顔はそっくりなのにサッカー選手やあかずきんちゃん、いぬに変身した似顔絵となり描きあがったものはお土産としていただき、会が終了しても描いてほしい人が出るほどの人気ぶりでした。2つ目は、みのり&鮑捷（ほうしょう）による二胡と琵琶のミニコンサートです。郷愁を誘う二胡の音色と繊細な琵琶の調べの生演奏に、皆さん酔いしれたことではないでしょうか。全国から集まった皆さんは親睦を深め、楽しいひと時を過ごされていました。最後は、恒例により来年の担当支部の東北支部高石支部長の閉会の言葉にて会は終了となりました。

今回の国立病院総合医学会をはじめ、各種関連会議、合同懇親会にご協力をいただきました会員の皆様に関信支部といたしまして心より感謝とお礼を申し上げます。

